



主張

「アクティブ・ラーニング」に必須の情報教育

赤岩輝雄

情報教育に大きな期待が寄せられている一方、学校現場での推進の取組は停滞しているとの指摘もあります。本稿では限られた中ではありますが、学校経営から見た期待と課題について少し整理してみたいと思います。

情報社会で必要とされる高度な知的生産や問題解決には、キー・コンピテンシーに照らすと、目前の状況に対して特定の定式や方法を反復継続的に当てはめることができる力だけではなく、変化に対応する力、経験から学ぶ力、批判的な立場で考え行動する力が求められるとされます。そのためには、「言語、シンボル、テキストを活用する能力」「知識や情報を活用する能力」「テクノロジーを活用する能力」を身に付け、自律的に学び続けることが重要です。これらの能力は広義の情報リテラシーを指すと考えられますが、情報リテラシーには「情報を読み解き活用する能力」と「情報技術を使いこなす能力」があるとされます。

「全日中教育ビジョン」の提言6「情報教育」には「情報化社会に主体的に対応できる『情報活用能力』の育成と、情報モラル教育に取り組むとともに、ICT活用を進める環境の整備に努める」とあり、右に挙げた情報リテラシーの両面に触れています。昨年発表



された中教審の「論点整理」では、これからの社会においては「膨大な情報から何が重要かを主体的に判断し、自ら問いを立ててその解決を目指し、他者と協働しながら新たな価値を生み出していくことが求められる」とし、「アクティブ・ラーニング」を推奨していますが、私は主体的・対話的な深い学びを機能させるには情報教育の推進が必須であると考えています。文科省合田教育課程課長は、アクティブ・ラーニングで大事なのは学習活動の外形や型ではなく、全ての子供がアクティブ・ラーナーとしてそれぞれの観点や力量に応じて必死で考え取り組んでいる学びの姿であると説明されていますが、より深い学びに向かうためには、広範囲に情報を収集し、意図に沿って情報を取捨選択しながら、客観性のある説得力に富んだ思考の形を表現しなければなりません。正に情報リテラシーがそうした活動や学びを支えることとなります。また、その過程を通して情報リテラシーのスキルも高まることになるでしょう。

一方、情報教育の推進には、ICT活用の環境整備とセキュリティ、教員の研修、生徒の情報モラルの涵養といった課題も多く、校長会として自治体や教育委員会へ環境整備の要望を上げるものの自治体によって差があるという実態があります。また、情報の教育化が進んでいる北欧との比較では「タブレットやノートパソコン等は文具扱いで学習者に管理が任される」「電子メール・校内SNS等学校・保護者・児童生徒間のコミュニケーションを媒介するサービスが日常的に利用されている」等、我が国の現状とは環境面で大きな差異があるとも指摘されています。

社会の在り方とも関わる課題ですが、今後も現場から声を上げていきたいと思えます。

(全日中副会長・札幌市立白石中学校校長)